



NAKAGAWA Kazumasa Memorial Museum of Art

中川一政 書と陶芸 の世界

画家の余技を超えて

2024 Autumn Exhibition - NAKAGAWA Kazumasa, Calligraphies and Ceramics



(左上から右回り)《僧敲月下門》1981年、《唐津掬り細水指》1983年、《信楽花入》1983年頃、《正念場》1989年、《われはでくなり》1985年、《扁壺》1986年頃、《兎香合》1981年、《茶碗》(未詳)、全て中川一政作品

1967(昭和42)年10月、中川一政は自身初となる書の展覧会「中川一政書展」(銀座松屋)を開催、74歳のことでした。同月の講演会で中川は「今度書を書き出したが、自分では余技だとは思わない」「絵と同じ気持ちで書いた」と述べています。また、「絵でも書道でも(中略)一度素人に戻り出発しなければ発展性がない」とも言います。これらの言葉は、彼の書が画家の余技ではなく全力の仕事であること、そして彼が人に習った技術ではなく、自分の方法を模索し制作する姿勢を大切にしていたことを物語っています。

その自身の書画に押す「陶印」作りから派生するかたちで手掛けた陶芸は、皿や茶碗に始まり、水指、花入、茶入など茶道具に及びます。また絵皿や「陶板」には、大胆に描かれた絵や文字が踊り、書画同源の境地を垣間見せてくれます。いずれも80歳代から90歳代にかけての仕事です。

本展では、中川一政が円熟期から晩年にかけて絵と同様に独学で切り拓き、精力的に取り組んだ書と陶芸を絵画と併せて紹介します。詩書画一致、融通無碍の世界をお楽しみください。

2024.9.7(土)

▶11.24(日)

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日(但し9/16・9/23・10/14・11/4(月・祝)開館、9/17・9/24・10/15・11/5(火)休館)

入館料 一般200円 高校生100円
(20名以上の団体は半額)
中学生以下及び障がい者手帳をご提示の方とその介護者1名は無料

白山市立松任中川一政記念美術館

〒924-0888 石川県白山市旭町61-1 電話 076-275-7532 (北陸新幹線金沢駅から普通列車で10分 松任駅南口横)
Closed: on Mondays. Access: 1 min. on foot from Matto Sta. South Exit. (10 min. on Local line from JR Kanazawa Station to Matto Station.)